

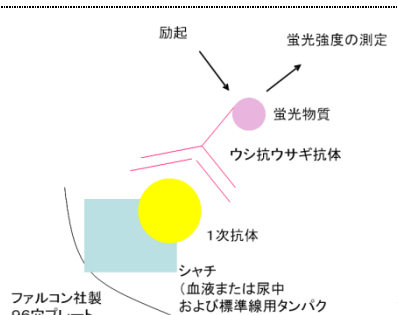
## うつ病を早く診断できれば、治療も早く取り掛かれる！

精神疾患早期診断キットの開発

技術分野分類 6806：医療系薬学

技術キーワード A：臨床薬学

産業分類 P-83：医療業

内 容	概 要	精神疾患は、青年期から働き盛りの世代にも発症することが多く、少しでも早く診断され、治療を開始するほど、薬物療法が有効になる。本研究では、うつ様症状が観察される患者の血液中のシャチタンパク濃度を測定したところ、発病前に健常者より高かったことから、精神科専門医でなくとも、うつ病の診断が可能となる測定結果を得た。
	従来技術・ 競合技術 との比較 (優位性)	精神科専門医が患者を診断することでしか精神疾患に罹患しているか否かを判断することが難しいのが現状である。昨今の社会情勢から考えて、うつ病の患者が急増していることもあり、うつ病早期診断方法の開発が望まれる。しかしながら、そのような方法は現在まで一切存在しない。
	本技術の 有用性	酵素免疫測定法(図)で実施するため、R I 施設等の特別な施設を必要としない。将来的には血液だけでなく尿でも測定できるように検討したい。
関連情報 (図・表・写真等)		 <p>酵素免疫測定法：酵素タンパク質（シャチ）と結合させた抗体を利用し、抗原の定量検出（蛍光物質）を行う方法</p>
適用可能製品		うつ病診断薬、ペットのうつ状態の判断ツール
技術 シーズ 保有者	氏名 所属・役職	新田 淳美 （薬学治療学研究室教授） 富山大学大学院 医学薬学研究部（薬学系）
技術 シーズ 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	富山大学 地域連携推進機構 産学連携部門 076-445-6940 / 076-445-6939 yamana@ctg.u-toyama.ac.jp

■知的財産 特願 2011-126100 精神障害の診断方法および診断薬キット

■試作品状況 無 提示可 提供可

作成日 2012年10月14日